

# ひとりぼっち

子ども食堂を入口にした「誰もとりこぼさないまちづくり」

「子ども食堂が増えることで地域ににぎわいが生まれていいな」、「子ども食堂は困窮支援なんだから本来政治がやるべきことでは?」、「ほんとに子ども食堂で赤信号の子を継続して支援できる?」などなど、全国で1万カ所に広がった子ども食堂にはさまざまな声が生まれています。そこで、今回、ひとりぼっちのいないまち - 子ども食堂を入口にした「まちづくり」をテーマに誰もとりこぼさない（社会的不利を抱える子どもたちもとりこぼさない）地域づくりについて考えてみたいと思います。

の  
い  
な  
い  
ま  
ち  
-  
こ  
も  
の  
し  
ゃ  
ん  
ど  
う  
を  
い  
ち  
ぶ  
ら  
に  
し  
て  
ま  
ち  
づ  
く  
り

2026年

3月

14日(土)

■13:00~14:00

記念講演会 講師：湯浅誠さん（社会活動家）

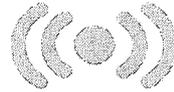
■14:00~14:30

実践報告 報告者：岡本工介（タウンスペース WAKWAK）

■14:30~15:00

調査報告 子ども食堂が生み出す社会のつながり 報告者：新谷龍太郎さん（同志社女子大学）

オンライン



(ZOOM)

【対象】 全国対象 / ご興味のある方どなたでも

【定員】 先着順100名

【申込先】 タウンスペースWAKWAK 072-693-9005

申込期間 1月7日~3月5日 申込方法 TEL・直接・Googleフォームにて

詳細はこちら



主催：一般社団法人タウンスペースWAKWAK

— 当事業は「大阪府福祉基金」を活用して実施します —

大阪府福祉基金  
育てる、つながる、  
一歩一歩に歩む福祉の未来へ

13:00~14:00 記念講演会



## 湯浅 誠

社会活動家

東京大学先端科学技術研究センター特任教授

認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ前理事長

東京大学法学部卒。1990年代よりホームレス支援に従事し、2009年から足掛け3年間に閣府参与に就任。政策決定の現場に携わったことで、官民協働とともに、日本社会を前に進めるために民主主義の成熟が重要と痛感する。著書に、『つながり続ける 子ども食堂』（中央公論社）、『「なんとかする」子どもの貧困』（角川新書）、『反貧困』（岩波新書、第8回大佛次郎論壇賞、第14回平和・協同ジャーナリスト基金賞受賞）など多数。

14:00~14:30 実践報告

## 岡本 工介

タウンスペース WAKWAK 事務局長



大阪府高槻市に生まれる。2002年以来、毎年渡米し、およそ20年以上にわたってネイティブ・アメリカン居留区でラコタ族の人々と親交を重ねる中で伝統的儀式や生き方、自然観に深くふれ親交を深める。また、放浪の旅の中、様々な国立公園やアメリカ南部を旅し、黒人公民権運動の指導者であるキング牧師のルーツを訪れる。旅の中で“ルーツを大切に生きる生き方”と“Community Of Trees”（様々な木々が育つ森を地域に創る）というヴィジョン（夢）をもちかえる。現在は、高槻市富田地域に基盤をおき、社会的包摂のまちづくりに携わる一方で、大学の研究員や非常勤講師等も務める。

著書に『ひとりぼっちのいない町をつくる - 貧困・教育格差に取り組む大阪・高槻富田の実践に学ぶ』（明石書店）ほか。NHKEテレバラバラ、NHK「クローズアップ現代」「政府広報」日本テレビ「24時間テレビ」ほかメディア出演多数。WAKWAKの実践は日本地域福祉学会「地域福祉優秀実践賞」やスミセイ「内閣府特命担当大臣賞」などを受賞している。

14:30~15:00 調査報告



## 新谷 龍太郎

同志社女子大学准教授

大阪府高槻市生まれ。2000年同志社大学法学部政治学科卒業、国際会議運営会社、私立学校コンサルティング会社勤務を経て、大阪大学大学院人間科学研究科単位取得満期退学、博士（人間科学）取得。2016年より平安女学院大学短期大学部を経て現職。学校の組織文化研究を軸として、①教育実践の継承・発展、②教育政策の影響の研究、アメリカとの比較をしつつ行っています。その人の「物語」に耳を傾けるキャリアカウンセリングや、インクルーシブ教育の研究会にも参加している。